

八幡小学校が環境学習を
行いました

去る6月9日(月)、
八幡小学校3・4年
生11名が蘭島(あらぎ
じま)を訪れ、田んぼ
に生きる生き物の観察
を行いました。子ども
たちは、先月田植えを
させていただいた田ん
ぼや用水路にいる生き
物をつかまえ、海南市
わんぱく公園長の有本
智さとしさんから生き物につ
いてさまざまなお話を伺いました。



当日は、短い時間でしたが、10種類以上の生き物が見
つかり、この中には子どもたちになじみ深いトノサマガエ
ル・ツチガエル・アマガエルなどのカエル以外にも、アン
モナイトのような形をした5ミリほどの小さなヒラマキミ
ズマイマイという名前の貝がいることや、子どもたちがタ
ニシと思っていたものがサカマキガイと呼ばれる巻き貝で

あること、アメンボがセミの仲間であり、顔がセミと同
じであることなど、今まで知らなかったさまざまなこと
を学ぶ機会となりました。

その中でも子どもたちに一番人気があったのがホウネ
ンエビです。ホウネンエビは、体長が2センチ程の小さ
な生き物で、お腹を上にした仰向けの姿勢でゆっくり
と泳ぐ姿が可愛らしく、子どもたちの興味を引いてい
るようです。ホウネンエビは、稲刈りの後、田んぼが干
上がると、卵の状態です。また、「豊年」というその名が示
すように、多く発生すると豊作になるといわれ、古く
から田んぼに密着した生き物です。

水田は、人間が生きていくために長い年月をかけて
作り上げた川とは異なる流れのない水をためる特殊な
環境であるため、そのおかげで生きていくことができ
る多くの生き物が存在
し、命を育んでいます。
生き物が大好きな子ど
もたちは、今回の学習
を通して自分達の住む
身近な環境に目を向け
るきっかけともなり、
棚田の果たす役割につ
いて学習する貴重な体
験になりました。

